

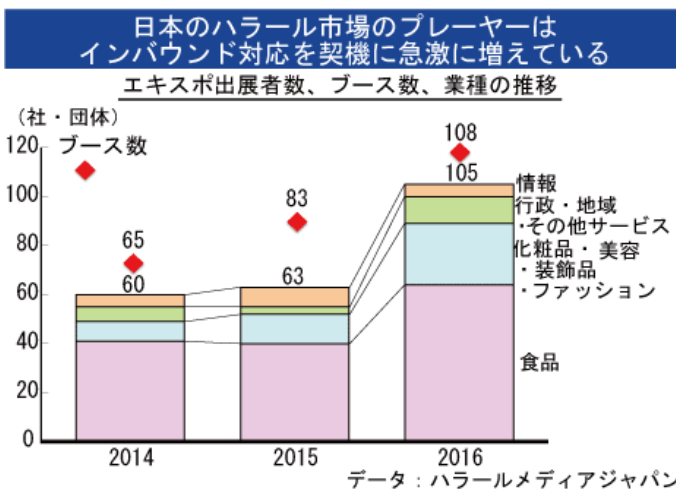
# ハラールという戦略上の選択肢 حلال

## データで読み解く訪日ムスリム客の動向

### 第 10 回

先週 22 日と 23 日の 2 日間にわたり、HALAL EXPO JAPAN 2016 が開催されました。過去 2 回開催した幕張メッセから場所を移し、今年は「ムスリム（イスラム教徒）対応が最も進んでいる街」、東京・浅草が舞台となりました。今回はこのイベントを通じて、日本のハラール市場にどのような変化が起こっているのかに注目してみましょう。

### 飲食店も攻勢に出始めた国内市場



まずご紹介するデータは「エキスポ出展者数と業種の推移」(※)です。これは過去 3 回にわたるエキスポ出展者の数と、業種による内訳を示したもので、2014 年から 15 年にかけて 5% 増と微増だった出展者数が 16 年に 67% 増と大きく増加したことが確認できます。それではシェアが大きい順に見てみましょう。

最大シェアの食品関連では、飲食店の出展が増えました。過去 2 回は最終製品の輸出を目指す企業が多かったのですが、今年はインバウンド対応として出展した企業が多く、中でも飲食店の増加が目立ちました。店舗としてはハラール認証を取得していないが、食材は全てハラールに対応、メニューも英語化しており、ムスリム客が重視するお祈りの空間も完備している、といった飲食店が精力的にセールスしていました。

「ハラール餃子」で一躍有名になった栃木県佐野市

の「日光軒」や、「自分で作れるハラールたこ焼き」として人気上昇中の大阪市の「祭」などが出展し、普段は現地に行かないと楽しめない味を会場で再現して人気を博していました。またハラールメニューのレシピ紹介や、料理の実演などで来日した外国人料理人との交流など、エキスポならではのネットワーキングが繰り広げられました。フランチイズ展開のチャンスや提携先を探していた企業・店舗にとってもビジネスマッチングの機会になったようです。

### ヒジャブを「羽織る・まとう」という発想

今年一番注目されたのは、化粧品・美容・装飾品・ファッションです。日本初となるムスリムファッションショーを目玉に、英国人プロガーによるヒジャブ（イスラム教徒の女性が頭にかぶるスカーフ）のスタイリングセッション、カラーコーディネートセッション、肌に模様を描くヘナタトゥーの実演などはどれも女性客で埋まり、日本人には馴染みのない新しいスタイルに注目が集まりました。

実際、エキスポ会場は、ファッションショーの影響もあって、例年以上に女性客の比率が高くなりました。日本人来場者の多くが初めて見るムスリムファッションはどれも華やかで、しかし日本人モデルを起用したことから予想以上に意外性はなく、日常的に取り入れられそうなヒントも少なくなかったようです。例えばヒジャブは元来「覆う・隠す」目的で使用されるものですが、ショーやセッションを見た観客からは「羽織る・まとう」といった使い方が日本人には合うのではないかとの声が聞かれました。従来、ヒジャブには比較的重いイメージがありましたが、一転して明るく軽く捉えられたようです。

### さながら各地のハラール物産展に

3 番目に出展が多かったのは、行政・地域・その他サービスです。徳島県や千葉市といった自治体のほかに、地域名を冠した団体が北海道、帯広、石巻、両毛（栃木県）、関西、鹿児島から共同ブースを出していました。2～3 のブースに 10 社以上が共同で出展している様子は、個々の店舗や企業といった「点」ではなく、

インバウンドに必須といわれる複数による「面」での広域連携の実例を示したものでした。まだ「ハラールとは」という入門編のセミナーを行っている地方都市が多い中で、こうした先行組は着実にムスリム対応を進めていることを印象付けました。

共同ブース以外の特徴としては、地元の学生が応援に加わっていたことがあります。過去2回はムスリムの外国人留学生が売り子や通訳として活躍していましたが、今年は日本人学生とムスリム留学生が一緒になって地元のPRに努めていました。ある日本人学生によると、今回参加したのは、イスラム文化や宗教に関心があり、卒業研究でハラールをテーマにするための調査の一環だということでした。確かにハラールメディアジャパンにも「ハラールを卒業研究のテーマにするので話を聞かせてほしい」といった問い合わせや、インターン志望者が増えています。学生の中でもハラールはちょっとしたブームになっているようです。

3年目の開催となったこのイベントは、日本国内でハラールのサプライチェーンが確実に拡大していることを内外に示すものとなりました。海外からの来場者は「日本を含む東アジアは今後、最も伸びるハラール市場だ」と感じ、日本の来場者は「ムスリムインバウンド」に注目しています。来年のHALAL EXPO JAPAN 2017は5月に大阪、11月に東京での開催が決定しています。ハラール対応でどんな進展があるのか、東京五

輪が開催され大勢のムスリムの来日が予想される20年までのファイナルカウントダウンを感じさせてくれることでしょう。

※14年と15年はJAPAN HALAL EXPO 2014、2015、16年はHALAL EXPO JAPAN 2016での実績。

<筆者紹介>

横山真也

Yokoyama & Company (S) Pte Ltd マネジングディレクター

ハラールメディアジャパン株式会社 共同創業者

ハラール関連事業としては2014年元日に「世界初の英語発信による日本ハラール専門ポータルサイト」HALAL MEDIA JAPANを開設、14年にはハラール・ベジタリアンレストラン検索サイト・アプリ「HALAL GOURMET JAPAN」をサービスイン。日本最大のハラールトレードショーであるJAPAN HALAL EXPOを14年と15年に開催、16年には新たにHALAL EXPO JAPANとして日本初のムスリムファッションショー TOKYO MODEST FASHION SHOWと併せて東京で開催した。17年5月には大阪で地方初となる同イベントを開催する。

**10年以上の刊行実績 海外赴任に役立つ情報ガイドブック！**  
赴任前の準備から現地での生活、帰国後の情報まで分かりやすくまとめた一冊。

# 海外赴任2016 リロケーションガイド

発行 エヌ・エヌ・エー  
リロケーション・インターナショナル

【附】すぐに役立つデータ集

**第1章 赴任の手続き**  
公的機関への手続き  
ビザの取得方法  
暮らしに関する手続き  
お金に関する手続き  
赴任後の生活の準備  
日本に残る親のケア  
海外赴任者のマイナンバーの取扱い  
語学学習の準備

**第2章 住宅**  
自宅をどうするか  
借家住まいの注意点  
持ち家を賃貸する  
持ち家を空家のままにする  
家を売却する  
家の税金  
赴任地での住まい

**第3章 引越**  
タイムスケジュール  
準備  
荷造り  
荷物の種類  
ペットの送り方・持ち込み方  
荷物の発送・受け取り

**第4章 健康管理**  
赴任前の準備  
感染症対策  
予防接種  
海外医療事情  
海外での出産  
医薬品の持ち込み

**第5章 子育て・教育**  
転校の準備  
海外学校事情

**第6章 赴任地での暮らし**  
現地での生活の始め方  
新しい生活を楽しもう  
安全対策  
生活に便利な情報

**第7章 帰国**  
帰国後の教育  
帰国生入試の基礎知識  
スーパーグローバル大学

【附録】データ集  
在日大使館・領事館など  
海外赴任をサポートする企業・団体など  
チェックリスト(赴任前・タイムチャート・  
海外赴任準備・引越)

「海外赴任前に準備したい保険と介護」の座談会や「スーパーグローバル大学」を新たに企画・取材。

「マイナンバー制度」や「認知症とドッグセラピー」なども掲載した最新版。

■A5判 / 280ページ  
■発売：キョーハンブックス  
■発行年月：2016年1月22日